

なかとんべつ 町議会だより

Volume

162

平成21年1月25日発行



美男美女勢そろい 平成生まれの成人式

議員報酬削減条例を全会一致で可決
環境基本条例、常任委員会に付託・継続審査に！

第4回定例会議決結果一覧	2
私たちの一般質問	4
所管事務調査報告	7
議決された条例・補正予算	10
議員だより～私の思い～	11
議会の動き・あとかき	12

発行 中頓別町議会
編集 議会広報編集特別委員会
お問合せ／北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
tel (01634) 6-2244 (直通) / fax 6-1155

議員報酬削減条例を全会一致で可決

環境基本条例は常任委員会に付託・継続審査に！



第4回 定例会

公の施設の管理運営業務のあり方に関する特別委員会設置

地域活性化交付金1千4百94万1千円

平成20年第4回定例会が12月14日から16日まで3日間の会期で開かれましたが、審議が順調に進んだため、会期を1日残し15日に閉会しました。

初日の行政報告で野邑町長は、社団法人宗谷畜産開発公社の解散に伴い、本町が出資した100万円が稚内市に帰属し、返還されないこと、天北厚生園の看護師定員を充足させるため、国保病院から准看護師1名を派遣したことを報告。

一般質問では、環境基本条例・基本計画と自然環境の保全・利用、災害対策などについて、5名の議員が長側の姿勢を質（ただ）しました。

町長から提案された6件の議案のうち、「中頓別町環境基本条例」は、いきいきふるさと常任委員会に付託され継続審査となりました。

地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金として国から交付される1千4百94万1千円のほか、一般会計補正予算5件の議案はいずれも賛成多数で可決されました。

自治体財政健全化法により、本町が早期健全化団体となることがほぼ確実となったため、議員の報酬を削減する条例が議員提案され、全会一致で可決されました。これにより、管内で最も低かった本町議会議員の年収格差は、さらに拡大することになります。

また、本定例会で報告された町及び教育委員会による公の施設の管理運営業務委託の随時監査結果について、行政の監視機関である議会が自ら検査を行なうため、「公の施設の管理運営業務のあり方に関する特別委員会」が設置されました。

第4回定例会で 決まりました



議決結果の一覧

※○は可決、△は付託、継続審査

- 発議第1号 議会の議員報酬額及び費用弁償並びにその支給に関する条例（一部改正）
- 議案第1号 中頓別町立学校設置条例（一部改正）
- 議案第2号 中頓別町生活安全条例（一部改正）
- △ 議案第3号 中頓別町環境基本条例（いきいきふるさと常任委員会に付託・継続審査）
- 議案第4号 平成20年度中頓別町一般会計補正予算
- 議案第5号 平成20年度中頓別町国民健康保険事業特別会計補正予算
- 議案第6号 平成20年度中頓別町国民健康保険病院事業会計補正予算
- 発議第2号 事務検査に関する決議（案）

※「事務検査に関する決議」の主な内容は下欄に掲載しています。

事務検査に関する決議

地方自治法第98条第1項の規定により、議会には町の事務の検査を行う権限が与えられています。

今回は、監査委員が行った随時監査の報告（広報なかとんべつNO597・12月1月合併号10～11項に掲載）について、行政の監視機関である議会として自ら検査を行なうことを議決したものです。（平成20年12月15日議決／提案者・藤田議員／賛成者・柳澤議員）

検査する事項は、財務に関する事務の執行について（教育委員会等所管の公の施設の管理運営業務委託に関する事項）であり、町及び教育委員会が行なう公の施設の管理運営業務委託のあり方、監査委員指摘事項等への措置の状況、今後の予算計上の有無等を見極めるものです。

検査は、関係書類及び計算書、管理運営業務委託先の事業報告書等の提出を求め、7名で構成する「公の施設の管理運営業務のあり方に関する特別委員会」を設置し、これに付託・権限を委任して閉会中も検査を行うことができます。

【特別委員会委員名】

委員長・藤田首健／副委員長・柳澤雅宏／委員・西原史騎・本多夕紀江・村山義明・星川三喜男・石神忠信



ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

第4回定例会では、環境基本条例、在宅高齢者訪問事業、町民の暮らしと財政、山村留学の継続などを求め、5名の議員が一般質問を行いました。

山村留学継続を！ 柳澤雅宏

問 都市との交流事業の促進について

小頓別地区では17年間に渡り山村留学を実施してきた。来年（平成21年）3月末の小中学校閉校とあわせて山村留学を終らせるのではなく、現在山村留学している児童生徒を転校生というような考えのもとで中頓別地区の学校に受入れることで、都市との交流、ひいては現在進めている定住促進事業の推進になると考える。

現在山村留学されている児童の中で、4名程度がこのまま当町に留まることを希望していると聞いている。こういった子どもたちに、これまで実施した支援策を引続き行なうつもりがあるのか伺う。

また、現実問題として今年当町で生まれたお子さんが7名。中頓別の小・中学校の（統合）も目前に来ている。山村留学の募集や学校の協力を得ながら中頓別の特徴ある教育を議論していくべきだと思う。

答 石川教育次長

山村留学を継続する場合、PTAをはじめ地域の理解と協力が不可欠。協議会などの団体に対する支援は可能と考えている。

答 野邑町長

保護者がついてこれば都市との交流として充分受入れられる。お子さんだけが来て都市との交流として受入れるのは難しい。子どもたちを責任もってサポートする地域住民がいなければ簡単にはいかない。

親子で中頓別に来てくれるのであれば、都市との交流、移住定住とセットにしても可能ではないかと思う。まちづくり推進課で十分調査研究したうえで、親子留学等の募集をすることはやぶさかではない。

答 米屋教育長

山村留学を受入れる場合は毎年生徒も変わる中で、学習の仕方、集団生活の中でやっていく教育の仕方等がかかわってくるので、学校や保護者など地域の理解がなければならぬ。新たに山村留学等の検討を考える会も立ち上がったということで、会の意向なりを十分尊重しながら、またあらゆる方面から検討していかないとはいけなく考えているところである。

中頓別の宝物 希少動植物の保護・保全を！

藤田首健



頓別川河川調査では、全国的にも希少なカワシンジュガイの稚貝が多数見つかる

問 環境基本条例、基本計画と自然環境の保全利用について

環境基本条例が施行された場合、環境を念頭に置いた政策が進められる。環境基本計画策定にあたり実施された自然環境調査では、頓別川水系や鍾乳洞周辺などで希少な動植物の発見が相次いだ。それらの保護、保全と利用等の関係について次の点を伺う。

① 今後は環境基本計画に鍾乳洞や頓別川の利用、森林療法や環境教育への活用も位置づけるべき、策定時期や内容、方向性は？

② 来年度、中頓別鍾乳洞を野草園とする道を開くべき。入場料を徴収し、希少動物の保護保全等に役立てるべきでは？

これまで鍾乳洞の植物群は保護活動に熱心な管理人さんに守られてきたが、今後は？

③ 生物多様性基本法では、生物の多様性の保全及び持続可能な利用を原則として、自治体にも自然的、社会的条件に応じた施策を実施すべしとの責務を課している。この法律の理念や自治体への責務を環境基本条例や計画の中に一体的に取り入れる必要があると考えるが、町長の所見を伺う。

また、頓別川河川整備事業については、環境基本計画等にその方針が位置づけられるまでは地元の考えは白紙の状態と思うが、生物多様性基本法は北海道にも適用されるので、土現と今後どのような協議をしていくつもりか伺う。

答 小林まちづくり推進課長

① 環境基本計画は今議会で提案した環境基本条例の基本理念や基本方針を踏まえ、環境なかとんべつ町民会議がまとめた計画案を基本に、平成21年3月までに策定する考えである。

② 鍾乳洞は以前にも精度の高い調査を実施しており、保全保護を基本とした整備が行なわれている。野草園化、入場料の徴収については、鍾乳洞自然ふれあい公園全体の活用を考えていく検討組織を立ち上げ、早い時期に結論を出せるように取組んで行きたい。

答 野邑町長

② 中頓別鍾乳洞は他の鍾乳洞とくらべると洞窟のイメージだと思ふ。樹木や草花を理解できる表示をすることで入場料の値が出ると思ふ。担当には有料化を含めて一定の方向性を出すよう指示している。

また、管理人さんについては、もう一年協力していただけると伺っている。

③ 第6期総合計画を策定する際全町民にアンケートを行った結果「町外の人たちに誇れるものはすばらしい自然環境」との結論が出ている。それに基づき、総合計画の中で環境基本条例・環境基本計画の策定を一つの大きな柱に据えてきた。

生物多様性基本法の理念等についても、今回の環境基本条例の中で取組めると考えており、環境に配慮した地域づくりを進めていきたい。

また、頓別川の改修は、基本的には「町民の生命、財産の保護」「すばらしい環境の保全」「希少動物の保護」という3つの柱の整合性をもって進めるべきと考えている。

土現との関係については、今懇話会に諮問をしており、その結果をもとに話し合いを進めたい。3つの柱の整合性がとれる答申を期待している。

寝たきりにさせない 寝たきりをつくらない！

本多夕紀江

問 在宅高齢者への訪問事業について

医療・介護ともに予防を重視する方向にあり、健康教室や講座への参加者は多いと伺っている。しかし、それらに参加しない、できない方へのケアが気になっている。

①外出がままならない人には、戸別訪問で運動器不安定症の改善を指導できないか？

②包括支援センター保健師による65歳以上実態把握の訪問は全員が対象か？把握もれがないかどうか、また把握後の対策は？

③現在、保健師は激務である。本来の業務に専念できるように体制を整えるべきでは？

④健康面のほか、日常生活上の相談事にも対応する社協委託の訪問サービスはようになるか？

答 奥村保健福祉課長

①運動機能について指導が必要な方には、医師の指示のもと理学療法士や作業療法士が指導している。センター来所が困難な方の訪問指導に努めている。

②全員を対象としていないが、生活機能評価や特定検診等から必要と判断された方、外出困難な世帯、相談を受けた世帯、住民の情報、保健師が必要と判断した世帯を重点に、訪問指導に努めている。

④21年度以降、各自治会と連携して事業を進めていく。65歳以上の高齢者世帯、独居世帯、障害者世帯などが対象で週一回程度の訪問を予定。自治会ごとの取組みになる。

答 野邑町長

③保健師が本来業務の他に、やらなくてもいい業務も保健センターで一生涯命行っているのではないかと思つた。施設に来られないような人たちのところを訪問して歩くことが保健師の業務だという認識を持って検討させる。

市街地の河川改修を急ぐべき！

本多夕紀江

問 災害対策について

市街地・頓別川沿いには、医療・福祉施設・公営住宅等があり、水害の発生で住民生活への大きな影響が心配される。

①行政と地域住民が一体となった、具体的な実効性のある防災組織の早急な確立を。

②河川法では地域住民の意見反映が謳われている。あかね団地など市街地の河川改修を急ぐべき。

③避難所・避難場所がわかりにくいのではないか？

④下水終末処理場の排水機能は？

答 遠藤総務課長

①防災組織については、あかね地区での立ち上げに向けて自治会と協議中。他の自治会にも要請していきたい。

③避難所等については、旬報・広報で知らせていく。ほとんどが公共施設であり、冬期間も使用は可能である。

答 中原産業建設課参事

②河川改修案はまとまっていないが、「頓別川河川整備のあり方を検討する町民懇話会」を設置し、今年度中に整備のあり方を検討することとしている。

その中でまとまったものを土木現業所にあげていく。河川改修については、浜頓別が平成21年まで、中頓別は平成22年からの予定。

④下水終末処理場の排水は、角田の沢川に流している。昨年一度、大雨で水位が上がったため、ポンプで汲み上げて対応した事例がある。

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な「しゃべり場」です。議会では、議会だよりで必要な情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

一般質問の様子は、役場及び町民センターに設置された大型テレビでも放映されます。

議会日程や傍聴方法、請願手続きなどのお問合せは、お気軽に（TEL6-2244・議会事務局）へ。



完成間近の医師住宅を視察

いきいきふるさと
常任委員会
所管事務
調査報告

いきいきふるさと常任委員会では、所管事務調査の結果を柳澤委員長が、平成20年12月14日の本会議で報告。その概要と集約された意見をお知らせします。

■国保病院の運営等

本委員会では、11月13日、28日の両日、国保病院の医師住宅新築工事兼ねて道路工事（町道1条通り線、町道7丁目線、町道中頓別弥生線）の視察を行いました。

【意見】

医師住宅は、今年度の居住状況を評価の上、アフター一点検で欠点が見つければ、来年度建設分（1棟）において適確に是正すること。平成19年度から今年度にかけて実施された7丁目線改良舗装工事で、歩道のひび割れが多数確認されたので、原因調査の上、修復を図ること。

■環境基本条例・環境基本計画等

本委員会は、10月29日、11月28日の両日にわたり、環境基本計画に反映されるべき町内の自然環境調査（植物、水生昆虫、魚類、鳥類等）の結果報告を参考人から受けるとともに、生物多様性基本法など、環境基本条例等に影響を及ぼす法体系の調査を行いました。

【意見】

環境基本条例が第4回定例会に提案された場合は、本会議で常任委員会付託を議決の上、環境基本計画（行動計画）や検討が進められている自治基本条例との整合性に重点をおき、今後の頓別川河川整備（改修）のあり方や位置付け、スケジュールも含め総合的、一体的に審査する。

■観光の振興策（中頓別鍾乳洞等）

本委員会は、11月13日、12月5日の両日にわたり、中頓別鍾乳洞の観光・利活用の調査を行いました。

【意見】

中頓別鍾乳洞の有料化については、すでに2年以上にわたって議論が続けられてきており、行政として早急に結論を出すよう求める。

次の所管事務調査

いきいきふるさと常任委員会は、第1回（3月）定例会までに、次の事項の調査を行います。

- ①自治基本条例等、②国保病院の運営、③総合計画、④障害者福祉等、⑤こども館の運営、⑥所管事務のうち緊急を要する事項

公の施設 本来の役割・目的は？

本多夕紀江

問 指定管理者制度の成果と課題

本町の公の施設（寿公園レク施設・道の駅周辺施設・ピンネシリ温泉・もうもうとオガル・鍾乳洞ふれあい公園・ピンネシリふれあい公園・旭台公園）には18年度から指定管理者制度が導入されましたが、21年3月31日で指定管理の期限終了である。

- ①業務委託で十分な施設もあるが、次年度以降も指定管理制とするのか？指定、雇用については町内優先を。
- ②食彩工房もうもうとつくった加工食品販売の可能性は？体験農園オガルは、畑にパークが入っているなど作物の育成に問題がある。直営に戻し、あり方を検討すべき。
- ③制度導入の成果と課題は？

答 遠藤総務課長

①基本的には現在の管理者に再指定をする。辞退を申し出ている施設もあるので、新たな管理者へ移行を検討している。当然、町内・町民を優先させる。

③成果としては経費の削減、良好な施設運営、担当課職員の負担軽減、町外からの利用者増加がある。課題としては、利用者や指定管理者の確保、老朽化する施設の維持管理経費の増加などがある。

答 野邑町長

①旭台公園・ピンネシリふれあい公園は、指定管理者制度の必要性はなかった。

答 柴田産業建設課長

②もうもうとつくった加工食品の販売は条件が限られるが可能ではある。オガルではパーク堆肥と土による有機栽培を考えてきているが、水はけが悪いなどの問題が指摘されている。どのような改良ができるか検討していきたい。運営のあり方や、公共施設の目的外使用については十分検討していく。

今後の「収入増」対策 「支出減」対策は？

東海林 繁 幸



病院問題を考える勉強会
住民一体となった取組みが求められる

問 どうなりますか？町の財政と町民のくらし

病院赤字は一億3千万円と言われている。町民は財政が厳しい中、病院は、公共料金はどうかかわるのか不安に思っている。「住んでいて良かった」まちにするために、町長はこの町をどうするべきか伺う。
収入増対策は？

① 適切な公共事業を進めるとして、どのような事業にどのような財源対策をするのか？

② 町税（町民税・固定資産税・国民健康保険税）や使用料（公営住宅・簡易水道・下水道・施設使用料）を値上げする考えはあるのか？

③ 町有財産（土地・建物・森林等）の売却は考えているのか？

④ 行政サービスの低下は困るが、やむなく落とすとしてどの領域となるのか？

支出減対策は？

① 大きな赤字を生む病院の現体制を支出減の視点でどう維持するのか？

② 各種補助金の削減を計るとして何を減ずるのか？

③ 公営施設の運営について、民間委託や廃止・休止の検討はされるか？

除雪やこども館はどうなるか？

④ 現状にあつてプラス思考を目指す施策はあるか？

答 野邑町長

収入増対策について

① 公共事業の実施では、高率な補助金、有利な起債導入を図る。高率補助への移行や補助残に過疎債を充当する対策を進める。

② 町税や使用料について、町民に負担を求めるとは現段階では考えていない。

③ 利用の見込まれない財産は売却していく。森林については将来の財産形成のためにも売却はしない。

④ 行政サービスの引き下げは、現段階で考えていない。

支出減対策について

① 病院をなくせば住民も老人ホーム（福祉施設）に入所する方も住めなくなってしまう。また、都市病院から長期入院で出された方の受け皿としても必要。

② 各種補助金の削減については、効果や繰越金の状況等を精査して削減を進める。

③ 公共施設の指定管理が本年度で最終年度となる。来年度以降も指定管理の運営を進めたい。認定こども園では、6時間コースを廃止するかわりに保育料を引下げて入園者増を計れないか、保護者等と話し合いをしていく。除雪の民間委託については、金額的に受け手が見つからないので直営で行なう。

④ 自治体財政健全化法の早期健全化基準（25%）を実質公債費比率（28.8%）が上回っている。大きなプラス思考の施策はとれないが、財政状況が好転した場合に新しい施策に対応できるように、職員の施策能力向上に努めたい。

ホームページで議事録などを公開しています

中頓別町のホームページ (<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>) で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから(町の概要)→(中頓別町議会)へ進みご覧ください。

議会はみなさんの暮らし、福祉などの身近な問題を議論する大切な会議です。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel 6-2244（議会事務局）へ。

業務分担を見直し、効率の良い行政運営を

西原 央 騎

問 まちづくり推進課の担う業務の分担について

おためし暮らし、自然学校、森林療法、環境ミーティング、生涯学習等々、新たな企画・行事が増えてまちづくり推進課の職員が多忙すぎるのではないかと。執行機関全体の課題として、まちづくり推進課の担う業務の負担について見直しを図るべき。

①有害鳥獣は、産業建設課が担う方が効率がよい分野ではないか？
②森林療法は、健康ウォーキングなど「町内向き事業」と、ヘルスツーリズムの模索といった「町外向き事業」がある。各課の業務分担と、中頓別森林療法研究会との連携はどのように進める計画か？

③2年目の取組みとなっている「おためし暮らし」。今後は、観光協会やピンネシリ温泉（あるいは自然学校）など観光を担い宿泊施設の運用も行う組織が、生産性のある事業や生業として「おためし暮らし」を担って行けるよう方向付けを行う時期では？

④執行機関全体の課題として、まちづくり推進課の担う業務について、分担の見直しを図り効率化すべきでは？

答 野邑町長

①支庁では道民生活や消費生活を取り扱う環境生活課が有害鳥獣の対応をしている。そういうことから、昨年まちづくり推進課が担った方がよいという結論が出た。どこが担当することで効率が上がるのか協議させたい。

④今後も行政全般の事務を効率的に処理するため、町民の利便性を高めるために組織機構改革に関する検討会議のなかで見直しを検討していきたい。

答 小林まちづくり推進課長

②平成19年度まで森林療法を所管する部署が明確ではなかった反省から、平成20年度よりまちづくり推進課がその役割を担っている。庁内連携を図って森林療法に取組める仕組みもつくってきた。来年度以降も森林療法研究会とも連携して森林療法を進めていく。

③移住定住の取組みは、受け皿となる土地・家屋物件の掘起しや情報提供が不十分であること。移住希望者が求める働く場がないということなどから実績を上げられていない現状で、道内観光や避暑という利用が多くなっている。今後は、おためし暮らし事業の見直しを行い、移住定住に結びつくよう取組んでいきたい。

そうや自然学校の課題は？

西原 央 騎

問 「そうや自然学校」一年目の課題と来年度の取組みについて

①そうや自然学校の「課題」と「来年度に向けた計画」は？

②自然学校で森林療法に取組んでいくのか？
また、道から（自然学校運営のために）社会教育主事が派遣されているが、来年度以降は町の社会教育主事が自然学校を担当できないか？

③自然学校をセンター方式の山村留学施設とし、都市の子どもたちを山村留学生として受入れ、夏期休暇や冬期休暇に帰省する期間を利用し、宿泊研修などの学校行事を受入れることで一年を通した利用が可能となることは考えられないか？

答 小林まちづくり推進課長

①課題は、専従スタッフの能力向上やボランティアスタッフの確保、宿泊先や食事など利用者の受け入れ態勢の確立、提供できるプログラムの整備などのほか、来年度以降の運営体制と財政的な基盤の確立が挙げられる。次年度は森林療法ほか、子どもたちの体験活動、人が育つ場づくり、中頓別体験ツアー、中頓別ツーリズムの展開を肉付けして進めていきたい。

②森林療法との連携は自然学校の大きな柱。町外からの受入れも含めて事業化を図って行きたい。

自然学校事業も生涯学習の取組みであると認識している。道教委派遣の社会教育主事は、すでに学校、社会教育、健康づくり、環境教育、体験型観光など一体的に進めていくうえで役割を担っている。社会教育主事の体制や対応は、今の段階でお答えするのは難しい。

③自然学校と山村留学センターを組み合わせることは、将来的な検討課題として位置づけている。センター方式の山村留学は、教育理念と学校や地域が一体となって取組む体制作り、教育面とともに経営面でも核となる人材が不可欠であり、時間をかけて検討する必要がある。

答 米屋教育長

②町の社会教育主事の対応については関係課を含めて検討する。

答 野邑町長

今年一年の様子を見てみると、自然学校としての特色をもう少し高める必要があると思う。来年は、まちづくり推進課の担当職員、道からの派遣、教育委員会の社会主事等々が連携を深めながらより効果をあげる一年になってほしいと期待している。

補正予算のあらまし

○議案第4号 一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額に2千72万3千円を追加し、予算総額は30億5千90万6千円に。

歳出補正の主なものは、国の地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金事業費として交付される1千4百94万1千円に該当する事業（福祉灯油助成事業、患者送迎車輛購入事業等）のほか、情報推進費としてパソコンの更新、南宗谷衛生施設組合負担金などです。

●主な質疑

Q 東海林委員

障害者自立支援対策推進事業として、障害児用遊具の備品購入費1百17万円を計上しているが、当事者団体と協議したか。

A 奥村保健福祉課長

協議していない。遊具（80万円相当）はこども館、拡大読書器（25万9千円）と拡聴器5台（11万1千円）は保健センターに設置する。

Q 本多委員

情報推進費（L GWAN提供装置撤去・更新2百17万9千円）の内容は？

A 遠藤総務課長

平成15年度に整備した現装置の保守点検契約が平成21年3月末で切れる。古くなると部品がなくなり、5年サイクルで装置の更新が必要である。

○議案第5号 国民健康保険事業特別会計補正予算

歳入歳出予算の総額に29万6千円を追加し、予算総額は3億9百14万6千円に。保健推進事業費として、保健師の研修旅費14万4千円、医療費抑制のため、医療費通知にかかる郵便料10万円を追加しています。

○議案第6号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収入支出の総額を変えず、医療費用の研究研修費に30万円を追加し、経費の内容を組替えて同額を減額しています。

Q 柳澤委員

院長交際費（30万円追加）、研修旅費（30万円）の使い道を伺う。

A 青木事務長

医大への表敬訪問、教授の就任祝い等に使われる。看護師、検査技師、医師の研修、学会等への参加旅費である。

議決された議案

条例・補正予算

第4回定例会では、議員報酬の削減条例など、議員提案1件、町長提案3件の条例案のほか、補正予算案3件が提案されました。

議案の内容と主な質疑をお知らせします。

○議案第1号 議会の議員報酬額及び費用弁償並びにその支給に関する条例（一部改正）

地方自治法一部改正（平成20年6月1日）により、議会活動の範囲がより拡大され、議員の職責は増していますが、自治体財政健全化法により、本町は早期健全化団体となることの実であり、先の決算審査特別委員会において議員や特別職の報酬削減を行い、町財政の再建に取り組むことが意見として付されたことから、本条例案が提案されました。

この改正により、報酬月額額は、議長21万円（現行24万7千円）、副議長19万円（20万1千円）、委員長18万5千円（19万円）、議員17万6千円（17万9千円）となります。役職上位者の報酬を大幅に削減したものの、若者や主婦層などが、議員に立候補しやすい環境を維持することを考慮し、一般

議員の削減率は低く押さえた改正です。

これにより、年間84万円（4・53%）の議員報酬が削減されます。（平成21年4月1日施行・12月15日議決）

■提案（発議）者 東海林繁幸
■賛成者 西原央騎

○議案第1号 中頓別町立学校設置条例（一部改正）

小頓別小中学校が、平成20年度末で閉校するため、文言を条文から削る改正です。（平成21年4月1日施行・12月15日議決）

○議案第2号 中頓別町生活安全条例（一部改正）

犯罪被害者基本法の施行及び犯罪被害者等基本計画の策定を踏まえ、北海道犯罪被害者等支援基本計画（平成19年3月8日策定）に伴い、文言の追加等を行う改正です。（公布日から施行・12月15日議決）

●主な質疑

Q 東海林議員・柳澤議員

犯罪被害者に町は具体的にどのような支援ができるのか。また、接点はもてるのか。

A 小林まちづくり推進課長

町職員が、警察、専門家との窓口となり親身に対応したい。警察から町に被害者情報が届くようになってはいい。出向いて情報を得るなど、連携を図りたい。

△議案第3号 中頓別町環境基本条例

本町の第6期総合計画は、自然と共生する地域づくりを大きな柱として策定され、森や川、農地を守りながら、人と自然が一緒に生きていくための基本となるしくみをつくり、守り続けていくことを施策として盛り込んでいます。環境を保全し、さらに豊かにする創造的な活動を進めるため、全41条からなる環境基本条例が提案されました。（12月15日・いきいきふるさと常任委員会付託）

議員だより

～私の思い～

このコーナーでは、それぞれの議員が町づくりや政治課題などについて意見や思いを綴ります。

毎号2名の議員がこのコーナーに登場します。8議員の提言・苦言・呟きにご期待を！



母なる頓別川。環境保全と防災問題に揺れる。

小さいことはいいことだ

昨年のクリスマスの朝刊に2035年末の本町の人口が1,022人(厚生労働省人口問題研究所調べ)となることが掲載されました。

道内9番目に小さい町で、その時、2千人を切る町村は28町村。全国で最小市の歌志内市は2,179人とのことです。

「大きいことはいいことだ」の文句が流行ったことがあります。私はあえて「小さいことはいいことだ」をこれまでも言ってきました。

意思の疎通、まとまり、省エネも加えてきましたが、行政の器で考えると、面積や公共施設も変わらずのまま、これを維持する困難さも実感として受け止めなければなりません。

住む人にとって病院の存在は、絶対条件です。社会的にも、長寿園、天北厚生園の利用者にとっても同じです。施設の存続にもかかわります。

一方、議会議員の定数も少なくなり、それが良いことに結びつけば良いのですが、議長、委員長を除く7人の決議では4人が多数決となり、この町は4人の同調者で決まる議会が「小さいことはいいことだ」と言っているのか大きな疑問となりました。

(綴人：東海林繁幸)

備えあれば憂い無し

「地球温暖化」、「異常気象」、「集中豪雨」、昨年随分聞かされた言葉です。

私たちの町は台風もなく、地震もなく、災害の少ない地域として安心して暮らしておりますが、最近テレビ報道される災害を見るたびに、だんだん不安になってきました。

今まで災害が少ないからと無防備でいいのだろうか？もし、集中豪雨で市街地に近い頓別川が氾濫したらどうなるのか？

あかね団地、病院、長寿園、下水道処理場等が大きな被害を受けることになるのはもちろん、市街地の中にも頓別川に流れ込む川や下水が流れ込めず、又逆流したりして水浸しになることが予想されます。

過日、そんな不安が商工会の役員会の中で出され、「頓別川の河川工事はどうなっているのか？」真剣に議論されました。

地先の問題、環境問題、整備の方法(工法等)、いろいろな問題はあるようです。

しかし、「災害はいつ来るかわからない」、町民の生命、財産、暮らしを守るため、一年でも早く頓別川の河川工事を促進させるべく、商工会として、また、地域住民として昨年10月上旬に、町と稚内土木現業所に直接要請に伺いました。

地元の都合で改修工事が何年も遅れると、今の道の財政状況からして予算がつかなくなる可能性もあります。自然環境を守る地域、防災上守らなければ地域等区別して考える方法もあり、地先の人達とも知恵を絞りあえば必ず解決策はあると思います。

又、積極的に防災自治組織を立ち上げようと準備を進めている町内(あかね団地、2町内、1町内?)もあり、この機会に防災意識が全町的に広がり、住民参加による避難訓練など、日頃から町内ごとに取り組んでおくことが大切だと思います。「準備あれば憂い無し」又、「住民参加とは自ら行動に移すことです。」

(綴人：村山義明)

※次回綴人は、星川議員、柳澤議員です

議会の動き

20年10月

- 27日 議会広報編集特別委員会
- 29日 いきいきふるさと常任委員会所管事務調査

11月

- 13日 議会運営委員会
いきいきふるさと常任委員会所管事務調査
議員協議会
全員協議会
- 19日 町村議会議長全国大会・豪雪地帯町村議会議長全国大会（東京都）
- 28日 いきいきふるさと常任委員会所管事務調査
議員協議会
- 29日 議会運営委員会

12月

- 5日 いきいきふるさと常任委員会所管事務調査
議会運営委員会
- 6日 第3回頓別川環境ミーティング2008
- 14日～15日
第4回定例会（サンデー議会）
- 15日 議会広報編集特別委員会
- 26日 公の施設の管理運営業務のあり方に関する特別委員会

21年1月

- 9日 公の施設の管理運営業務のあり方に関する特別委員会
議会運営委員会
- 13日 いきいきふるさと常任委員会所管事務調査（旭川市）
- 14日 議会広報編集特別委員会



白ヒゲサンタや可愛いサンタの衣装でクリスマス演奏会を盛り上げました。

主役は「我が家」の音楽家たち

昨年の12月20日、ふたつのクリスマスコンサートが行なわれました。

「こども館」で行われたコンサートには150名、夜「道の駅」には80名を超える観客が訪れて例年以上に賑やかなクリスマスとなりました。

こども館ではサンタクロースに扮した中学校の吹奏楽部の生徒たちと、青木先生（中頓別中学校教諭）の呼びかけに賛同した地域の音楽愛好者が笑顔で演奏。道の駅ではボーセンさん（英語指導助手）と地域の音楽愛好家がしっかりと演奏。

青木先生やボーセンさんの活躍を中心に、地域の音楽活動が華やかになってきています。演奏会で刺激を受けたお父さんが『押入れで眠っていたギターを弾始めた』家庭もあるようです。

その他にも女性グループによるハンドベル演奏が評判を呼んでいて、一度演奏を聞いてみたいと思っています。中頓別の音楽活動は地域住民が主役♪目指せオーケストラ!?

キャンドルを灯した演奏会。灯火と音楽の温もりに一年の恩恵を思い起こす。



編集後記

中頓別の元旦、街中を歩くと例年以上にひっそり静かで、人口減・財政難だからなあ…と寂しく感じました。

5日に行われた成人式では、新成人たちと小・中学校の卒業アルバムを見る機会がありました。5年前の写真ではあどけない男の子が、「カリスマ美容師になります」と社会人としての夢を語る姿がとても印象的でした。

10日、取材に行ったカルタ大会は、参加チームも多くカメラのレンズが曇るほどの熱気。成人式の影響でしょうか、カルタ大会の表彰式を眺めていると『この子どもたちもすぐに成人だなあ…』とおじさんの感慨が湧いてきました。

子どもの出生数が年間で一桁と、非常に少なくなっています。五年後のカルタ大会は盛り上がりつつあるのだろうか？五年後の小学校や中学校の姿はどのようなになっているのか？

複式学級？ 中頓別小中学校？

学校広域化？ 山村留学？

子どもの笑顔や笑い声が絶えない地域を住民の皆さんと共に考えて行く必要を強く感じています。

あけましておめでとうございます。本年も「議会だより」は分りやすい紙面を目指します。どうぞよろしくお願い致します。

議会広報編集特別委員会(西)